

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/ 1)

事業所番号	2795800560		
法人名	株式会社WarmUp		
事業所名	グループホームれもんの樹加美正覚寺		
所在地	大阪市平野区加美正覚寺3-7-19		
自己評価作成日	令和3年10月11日	評価結果市町村受理日	令和3年12月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルスに対する取り組みにおいて、党事業所において、職員全員が一丸となってクラスターにならないように、手洗い・消毒の励行・休日にも必要最低限の外出を守り、医療機関にワクチンを利用者全員、および職員全員早い時期に接種して頂き、おかげで1人の罹患者も無く無事に来ている。
また、アピールしておきたい点は、施設の理念にあるように、3ユニットで報告・連絡・相談し、勉強会特に、身体拘束の勉強会に力を入れている。
利用者様に寄り添った介護をこれからも模索し、職員の介護レベルの向上に繋げていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は訪問介護事業に携わっていた代表者が、団地で一人暮らしの高齢者がADLが低下して在宅での暮らしが困難になっていく過程で、受け皿の必要性を感じ3年前にグループホームを3ユニットで開設している。工場や住宅地が混在する地区に立地し、2階建ての外壁は真っ白で目を引き、建物内は明るい色調で壁も白く、絵の上手な利用者や得意な職員でペーパークハフトや季節の作品を壁全体に貼りめぐらせ見事を楽しませてくれる。管理者と職員は入居の多数を占める単身者に寄り添い今何がしたいか日々話しかけ、特に身体拘束の研修には力を入れ事例を用い繰り返し勉強して皆で取り組み拘束のないケアの実践に繋げ、職員も和気あいあいと雰囲気よく利用者の支援に努めている。開所時よりコロナ禍もあり地域交流が出来ていなく地域密着事業として今後積極的に取り組む姿勢がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット1

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は、3ユニットに掲げてあるが、スタッフルームに掲げて、勉強会等の際には、理念を再確認してから、勉強会を開いている。	事業所理念を「1.利用者様についての報告・連絡・相談の徹底。2.利用者様の訴えには必ず傾聴する。3.地域と共に歩んでいく。」として開所時に職員が考え作成している。玄関や各フロアに掲示し勉強会や申し送り時に確認仕合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナウィルスによって、緊急事態宣言もあり、利用者様には抵抗力が低下しているため、施設内で過ごしていただいているし、面会中止になっていることもあり、コロナ問題が収まったら、地域の行事に何らかの形で参加して頂こうと考えている。	コロナ禍で面会やボランティアの受け入れなど地域交流は出来ていない。利用者は近所の人が多く今後地域の行事に参加していく予定である。	地域密着事業として地域交流の必要性を感じているが積極的に行えていない。地域の人に事業所の知ってもらう取り組みや、自治会に加入し自治会長に挨拶に出かける等、交流のきっかけ作りを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナ禍の中でなかなかそのような機会が無いことは事実であるが、認知症についての勉強会を介護実践者研修を修了し、学んだことを毎月、定期の勉強会にて職員全体で学んでいるので、コロナ問題が終了したら、施設として何らかの形で地域の人々に貢献したいと考えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍にあり、運営推進委員会は開催できていない。	運営推進会議は開催できていない。運営推進委員会は必須なので、コロナ禍であっても書面開催をして欲しい。	2か月に1度自治会長・知見を有する地域住民・家族・地域包括支援センター職員が参加して事業所の現況報告・情報を貰い意見交換の場として地域密着型事業では必須の会議であり書面など工夫した会議の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当施設は、生活保護の利用者様がほとんどなので、わからないこと、確認したいことを連絡し、市役所のケースワーカーと連携を密にしている。	介護保険課や地域支援課に書類の提出や報告に出向いている。多数の生活保護受給者にケースワーカーが訪問している。安心サポートを受けている利用者もいる。電話でわからない事や相談をし、コロナ禍の情報や対策の助言を受けており、カッパ・マスクなどの支援物資を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊の利用者様が多いので、玄関の開錠は不可能であるが、身体拘束委員会を月3回、当施設の指針として年3回以上の勉強会を実施して、皆に周知し、試行錯誤しながら、日々のケアに当たっている。	身体拘束のマニュアル・身体拘束適正化のための指針を作成している。3か月に1度適正化委員会を開催して職員会議で勉強している。現状・プロセス・弊害・取り組み等事例を用い分かりやすく勉強して皆で知識向上し身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関は安全上施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての勉強会を開き、例えば身体拘束は虐待であるとの関連性についても周知の徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の残存能力を活かす勉強会や、成年後見制度については、勉強会にて周知、もしくはマニュアルを各フロアにおいているので、個々に勉強して頂いている。安心サポートについても何人かの利用者様にご利用されているので、勉強会にて安心サポートについて周知してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居していただく際に、家族様に対しては、施設の方向性や認知症の中核症状・周辺症状に対する説明を行い、理解をもって頂くよう努め、施設に対する安心感と信頼関係を築く努力を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、コロナ禍の中、面会禁止となっているが、コロナが落ち着いた際には、再びそのような機会を設け、家族様からの電話に利用者様が出て頂くことも多い。	家族からの電話で話を聞いたり利用者の日常の様子を書いた手紙を送っている。利用者の意見はお風呂等1対1の時や日常の会話の中で聞いている。絵の大好きな人の要求を家族に伝えて絵の具など持ってきてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議・全体会議にて、質疑応答の時間を設け、こうした方がいいという提案や、わからないことを報告・連絡・相談の場として、日々の介護の向上を目指している。	毎月のリーダー会議で意見を聞いたり申し送りノートを利用して意見を聞き・聞いた意見を申し送りノートで周知して共通認識している。ユニットリーダーとは何時でも話ができる。管理者面談は随時必要時に行っている。職員は月1回の催しを担当制で行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績については、人事考課にて行い、賞与を夏・冬に出している。労働環境については、例えば、職員が腰が痛いと言われる時は、ユニットの変更を考慮し、行うこともあり、訪問マッサージ等宿里康生の一環として導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	最近では、認知症実践者研修をリモート学習を職員に受講させたり、受講経験者を講師にして、なるべく勉強会に出席して頂き、レポート提出は必須としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	往診に来ていただいている病院と医療連携加算委託契約を行っており、その医療法人の介護老人保健施設や社会福祉法人のグループホームと勉強会等意見交換を行い、お互い切磋琢磨して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、アセスメント等で本人様の状態を職員と共に共有し、本人様が入所されて最初は、利用者様本人が不安なので、傾聴・職員が間に入り、共同生活をされるお手伝いをしていき、ゆっくりと本人様の理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安なこと、例えば認知症のBPSD(周辺症状)はよくあることで、本人様にとっては意味のある事であるとの事例を交えて説明し安心して頂いた件のように、家族様の思いも傾聴しながら、関係づくりに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの際に、当グループホームでは、しっかりとした介護を提供できないと感じ、入所判定会議にて、無理だと判断した際には、対応可能な施設の案内等をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	例えば、洗濯物たみ・食器を職員と共に拭いていただいたり、レクリエーションであれば、例えば、壁画等作成する際、夫々の役割を持っていただき、IADLの維持・向上に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在のコロナ禍で、面会に来られていないが、電話等で本人様と家族様とお話していただき、また、本人様の生活必需品を頼み、玄関で受け取っているように、家族様と協力しながら日々の介護に携わっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍で、面会は遠慮していただいているが、それまでは家族様をはじめ親戚や友人の訪問を、時間限定せずに随時訪問頂いている。	以前は親戚や友人が訪問していたが、現在は家族と30分の面会時間が設けられている。昔見ていた懐かしいドリフターズや石原裕次郎のビデオや映画を見て楽しんでいる。家族と電話をかけて話をしている。今後、利用者の一人ひとりの希望を個別支援として活かしていく計画をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士で食事やおやつを食べられるよう配慮し、スタッフが間に入って会話を橋渡しする等の支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば、退去された利用者様の家族様からの相談で車椅子をどのように選べばよいのかとの相談等(胃ろうになって退去された家族様)にのらして頂いたこともあり、必要時に応じて相談・援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月に1回のモニタリングで介護支援専門員が、本人様に聞き取った内容やユニット会議の話し合いで、提案が出てくるが、困難な場合は各ユニットリーダー、施設長、介護支援専門員でサービス担当者会議を開いて、本人様が生活しやすいように話し合っている。	入居時に利用者・家族から得た情報をアセスメントしてADLや薬・食事など3か月に1度モニタリングをして把握している。日常の会話の中で思いを聞いて利用者の思いに添えるよう、会議で話し合い支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて、居宅ケアマネージャーや支援相談員の話聞かせて頂き、状況把握しており、わからないことは連絡し、状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースには完全には合わせられないが、利用者様それぞれの過ごしやすい状況を作るためにユニット会議や全体会議にて把握に務め、できるだけ残存能力を保てるようにできることは自分でしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在、コロナ禍でサービス担当者会議にて、家族様の出席は出来ず、電話にて意見を聞いているが、例えば、状況が急激に悪化している利用者があるが、往診・訪問介護の際に意見等アドバイスを頂き、サービス担当者会議にて反映している。	短期目標3か月・長期目標6か月の見直しには家族に電話で意見や要望を聞き、医師や鍼灸マッサージの所見も取り入れて話し合い介護計画を作成している。状態に変化があれば随時見直しをしてその人にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報・介護日誌・申し送りノートにて、報告・連絡・相談して、日々の介護の見直し・ケアプランへの反映に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	報告・連絡・相談を前提に、その時々生まれるニーズに対応して、業務に取り組んでいる。 また、提携外の医療機関を家族様が望まれている方がいるが、定期検診に同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍の中で2か月に一回の訪問理美容は中止していたが、緊急事態宣言の解除と共に10月13日に来ていただいている。 訪問マッサージ等は施設に入る際に手洗い・アルコール消毒をしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、なごみ診療所・共立病院・ゆい今里クリニック・東和診療所内科に来ていただいている。 また、なごみ診療所とは、医療連携体制にある。	複数の医療機関が訪問診療医として定期的に来所、内科、精神科だけでなく、老人特有の殆どの疾患に対応してもらっている。鍼灸マッサージと歯科の訪問もある。急変にはなごみ診療所の訪問看護に連絡して指示を受けて対応するシステムができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、2名の利用者様が訪問看護にて点滴と褥瘡処置を週6回来ていただいているが、なにか症状が出た際には必ず相談し、指示またh訪問に来ていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様に身体的特変や、事故時の対応として、訪問看護師との連携、地域病院への早期対応を実施している。 入院・退院時の情報交換、共有をスムーズに実施しながら、それぞれの病院との協力体制、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重要事項説明書により、看取り介護を実施しているということは説明させていただいている。利用者様・家族様との話し合いで、もしもの時は救急搬送するかどうかも説明し、本人様・家族様の意見を尊重し、病院関係者とも話し合いながら支援に取り組むことを目指している。	看取り実績はまだないが、重度者はおり、訪問看護の助けを借りて、重度化介護の実践はしている。医療連携加算を算定しているため、重度化や看取りに関する指針やマニュアル類はあるものと思われるが、調査当日に管理者が不在であったため、確認ができなかった。	重度化や終末期の介護に関する必要書類を確認、整備し今後希望があると予想される看取り介護ができる体制を整えサービスの質の向上を希望する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応については、まず、施設長・介護支援専門員・各ユニットリーダーにまず、一報をいれて、指示を仰いで受けた方は、まず連携病院に連絡を入れ指示を受ける。救急搬送の際には、何をもっていくか、他のユニットの応援を呼ぶ等の勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し、施設内の消防設備やスプリンクラーの設置場所、止め方などを職員に伝えたり、避難経路の確認などを職員に指導している。	本年8月に大阪消防振興協会と連携して消火、地震対応、爆発に関する、訓練を実施している。2回目は来年2月に予定。避難訓練では利用者は非常口まで避難し、非常階段は車椅子に乗った人を上下2人で下す訓練を職員が行った。備品の充実は前回の課題であったが達成された。	地域連携はできていないので、運営推進会議で町会長と相談したり、避難訓練の時近所の人に挨拶に行ったり、できることから始めることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現在、身体拘束委員会や勉強会にて、スピーチロックの重要性について行っている。 また、接遇の仕方等もその際に伝えて行っている。それと共に認知症の勉強会を開催して、職業倫理を職員に学んでもらっている。	以前は接遇研修を行っていたが、最近では開催が難しく、OJTで指導している。トイレ介助の仕方や言葉遣い、ドラックロックなどを身体拘束研修と合わせて事例検討形式で学んで認知症患者の特性を理解した上での適切な言葉かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が選択できる場面では、職員ではなく、それぞれの利用者様に選択肢を提示して、選んでもらえるよう務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば、入浴の場合、利用者様のご希望を聞いて、朝の何時にはいりたいのか、昼から入りたいといわれる人にはそのように、できる限り聞いているが、時間的には、その時間は無理ですという説明をする時はありうる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	当施設では、利用者様と職員で入浴前に選び、本人様のその日の気に入ったコーディネートで、身だしなみを選んでいただく。無理な方にはこちらでコーディネートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ある程度決められたメニューを提供させていただきながら、+αで、その方の好きなものや食べたいものを把握し、提供している。 食器洗いや食器拭きなども、声掛けをおこなっている。	朝はパン屋さんから届くパンを、昼、夕は調理済み食品(冷凍)を指示通りの方法で解凍して提供している。ご飯と汁物はユニットで調理している。行事食も対応してくれているが、時には注文をやめておでんやちらし寿司などを利用者の好みをきいて職員が手作りするところもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	例えば、普通食を食べられる方、刻み食で食べられる方、ムース食じゃないと食べられない方と十人十色なので、できるだけ誤嚥性肺炎にならないように、ムース食でもトロミをつけたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄と、ハミングットのようなスポンジブラシを使用しながら、食事後の食物残渣の除去や誤嚥のリスクを減らすように務めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月、各利用者様に対して、尿量やADLに対して、適切なパット、リハビリパンツができていないかを検討し、改善を実施しながら、より本人様に沿った支援が可能になるよう務めている。	トイレはわかりやすいイラストの表示がしてある。本人のやる気と職員の適切な介助でリハビリパンツから布パンツになった例がある。一方安心のためにオムツにしてほしいと希望する利用者もあり、昼はリハビリパンツにして夜だけオムツにするなど、個々の希望とADLにあわせて個別のケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排泄感覚の周知と、便秘の方への適切な処置が可能となるよう務めている。また、体質改善も視野に入れて健康食品を飲んでいただくなど便秘や下痢などの腸トラブルの解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当施設においては、曜日を決めさせていたが、週2回は必ず入っていただいている。朝に入られるか、昼から入られるかは、本人様の意見を尊重している。	浴室は大きめの一般家庭用で、シャワーチェアやキャリーチェアを使い、重度の利用者には2人介助で浴槽に漬かってもらっている。寝たきりの人はお湯が貯められるストレッチャーを使っている。男性利用者が多く、同性、異性の介助者の希望にもできるだけ応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の過ごしやすいように、ソファにて休憩していただいたり、傾眠されていたらベッドにて昼寝していただくように支援させていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが、薬情にて、この薬は何のために飲むのか、例えば、利尿剤は、浮腫みを取るために服用するなど、先輩から教ったり、薬情をみて副作用の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例えば、塗りが好きな人が利用者様の中にいるが、集中力が続き、画用紙がすぐいっぱいになるほど描かれているので、家族様によく画用紙を送ってきていただく。その他、毎月の行事のお手伝いをさせていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、コロナ禍にあり、外出は控えさせていただいているが、コロナ状況が終息したら家族様の支援もいただいて、出かけられるようにしたいと感じている。コロナが落ち着いた際には近くの公園があるので散歩からはじめていきたいと考えている。	以前は近くの公園の桜を見に行ったり、滝のようになる大きな噴水のあるマンションに出かけていましたが、今はできておらず、そろそろ再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、コロナ禍にあり、職員が付き添っての買い物等できておらず、終息したら職員動向で買い物等をしていただこうと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、コロナ禍の中で、家族様が来れない状況が続いているが、家族様から電話があり、本人様と会話、また、本人様が電話をしたいといわれる際には、職員の手助けで電話をかける等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	例えば、トイレと分かり易いように、手作りの画用紙等で分かり易く大きな文字で混乱を招かないように工夫している。	新しくきれいな白い壁がすてきなセンスのよい、ペーパークラフトの作品で飾られている。特技のある職員と利用者の作品だそうで明るく楽しい雰囲気である。玄関にいろいろな色の珍しいメダカが飼育されていて、来所者や利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様の居室でおしゃべりされたり、ソファーに座っていただいて、談話を楽しまれたりする空間を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・テレビ台・小タンスは最初から備え付けてあるが、家族様と相談して使い慣れたものを使っていたらいい。	利用者の個室にも趣味の作品を飾ったり、思い入れのある馴染みの品を持参したり、その人らしい空間になっている。掃除はできる人は自分ですが、主にはお風呂のない日曜に集中的にして清潔に保つように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内では、転倒の危険性があるので、居室用の手すりを付けたり、安全性を考慮して、皆で試行錯誤しながら、工夫している。		